

7月のアンケートでは、大変お世話になりました。アンケートの結果は、おおむねよい評価をいただいておりますが、目標に達しなかった項目については、全職員で問題を共有し、原因を分析するとともに改善策を立案しました。その他の項目については、現在の取組を継続し、効果を検証します。今後も、職員一同努力していきます。

羅 針 盤				方 策	総合評価	改善策
評価対象		評価項目	具体的数値項目			
Ⅰ 確かな 学力 (自ら学び考える子)	①	学校は児童が「わかった、できた」という授業を行っている。	「授業は楽しく分かりやすい」と答えている児童が80%以上である。	・日々の教材研究に努め、子どもにとって「分かる授業」を心がける。 ・教科担任制、TTによる指導、低中高ブロックによる合同授業など指導形態や指導方法の工夫に努める。 ・体験的な学習活動や問題解決的な活動を取り入れる。 ・全国学力・学習状況調査や標準学力検査などの結果から、本校の課題を明らかにし、効果的な指導を行う。 ・計画的に課題を出し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・学期ごとに「家庭学習パワーアップ週間」を設け、子どもが自分の学習をマネジメントできるようにする。	A	教師が「～させる」授業から、児童が「～する」授業へ向けて、めあての設定から振り返りまでの「学び方」を身に付けさせるため、校内研修等で各学年のよかった事例と課題とその改善点について話し合い、実践していきます。 児童の学習のゴールの姿を職員間で共有し、その達成に向けて、教師が伴走者として子どもたちの学習を支援していきます。 ICT活用において、活用することを目的とせず、各授業のめあて達成のための有効な手段として活用します。 家庭学習においては、児童の回答結果は良好でしたが、保護者の視点からはよい結果を得られませんでした。宿題をしっかりとやる児童は多いが、宿題以外の学習に取り組めていないことが予想されます。そこで、漢字、音読、計算などの課題は今まで通り計画的に出し、家庭学習の習慣を身に付けさせます。さらに自主学習のやり方などをよくできている児童のものを見本として提示するなどして児童に伝え、児童が自分で課題を見つけ、自分から学習に取り組めるような指導を心がけます。 家庭学習パワーアップ週間での取組を振り返り、クラスの実態を見直し、課題を見つけ、改善に取り組み、より効果的な活動にしていきます。 中学年以上の児童には、ミライシードを継続的かつ計画的に取り組ませ、基礎基本の定着を図ります。
	②	学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	「家庭学習(読書を含む)を学年×10分以上している」と答えている児童が80%以上である。			
	③	学校は、ICTを効果的に活用した学習をしている。	ICT(タブレット、映像、プロジェクター等)を使用することによって、学習がわかりやすくなったと答える児童が80%以上である。			
Ⅱ 豊かな心 (思いやりのある子)	④	学校は児童があいさつができるように適切に指導している。	「自分からあいさつができる」と答えている児童・教師・保護者が80%以上である。	・校長、教務による朝のあいさつ運動や児童会のあいさつ運動を行う。 ・あいさつの仕方を全学年で指導する。 ・係や委員会の指導を通じて、自分の行動に責任をもたせ、自分で考え、自分から行動できる児童の育成に努める。 ・日常の観察や「学校生活アンケート」を実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・こころの健康観察を定期的に実施し、ケアが必要な児童には、個人面談を行ったり、教育相談部会と連携を図りながら解決に導く。 ・いじめ事案は、校内で情報共有し、組織的、継続的に指導し100%の解決に努める。 ・児童運営委員会が主体となって、いじめ防止を呼びかける。 ・児童の様子の変化に注意し、声をかけ、児童が悩みや困り事など、教師に話しやすい環境づくりに努める。 ・小さな変化も見逃さないように観察し、声かけをしていく。	A	朝のあいさつ運動や授業の始め終わりのあいさつなど、しっかりとできる児童が多く見られます。引き続き学校生活を送る中で児童の自己指導能力を伸ばす場や機会を積極的ににつくり、高めていきます。 臨機応変にその場、その時に応じたあいさつや、ボランティアの方たちへのあいさつが消極的になっている場面が見られます。あいさつは人と人とのつながりに欠かせない大切な行動であることを児童に理解させ、気持ちの良い生活が送れるように継続的に指導、実践していきます。 学校のいじめ防止基本方針をもとにいじめの早期発見、早期対応を心がける。そのために、全職員で全校児童をよく観察し、児童の様子の変化を見つめたり、感じたりしたら、報告、連絡、相談をこまめに行います。児童から話を聞いたり、多くの職員で様子を見守ります。また、児童、保護者に寄り添う支援をしています。 教育相談主任を中心としたチームで対応し、職員会議では気になる児童は児童支援情報交換で情報を共有します。担任個人ではなく、組織として対応します。また、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなげ、協力し支援していきます。 児童に対しては、学校生活アンケートやこころの健康観察を定期的に行い、こまめに様子を見ていき、担任している児童だけでなく、多くの児童と積極的にコミュニケーションを図り、児童が相談しやすい環境を作っていきます。 児童が悩みを相談しやすくなるために、SOSの出し方の授業を行います。授業の中で、悩みがあることは普通のことであることや、相談する相手や場面などを提示したりして、悩みを相談しやすいと感じてもらい、相談しやすい環境をつくっていきます。また、スクールカウンセラーとの連携を図り、その授業を実施してもらいます。
	⑤	児童の自己指導能力を育成している。	「自分の行動は、自分の頭で考えて自分で決めて動くことができる。」と答える児童が80%以上である。			
	⑥	学校はいじめのない学校づくりを推進している。	学校生活が楽しいと感じている児童が90%以上である。			
	⑦	学校はいじめのない学校づくりを推進している。	学校のいじめへの対応や対策ができていると答える児童・保護者が100%である。			
	⑧	児童は身近な人や相談窓口等に困ったことや悩みなどを相談できる。	「学校に相談がしやすい」と答える児童が90%以上である。			

Ⅲ 健康・体力 (心も体もたくましい子)	⑨	学校は、児童が基本的な生活習慣が定着するような働きかけを行っている。	毎日朝食をとっている児童が80%以上である。	・食事と体の成長を関連づけた授業を充実させる。 ・栄養士による朝食の大切さを扱った授業を実施する。 ・陸上、持久走、なわとびの練習時間を、年間を通して計画的に設定する。 ・朝行事に体育集会を取り入れる。 ・体育の授業で、鉄棒カード、なわとびカードを準備し、自主的に練習ができるようにする。	A	食事とからだの発達を学級で指導し、児童に朝食の大切さを知ってもらいます。食の専門の方に来校していただき、食の指導をしていきます。 生活習慣の見直しや睡眠の大切さについて、日頃から啓発していくとともに、保護者と連携を図りながら生活習慣の改善を図ります。 持久走やなわとびの学習の期間には、家庭でできる練習を提示したり、ワークシートを持ち帰らせ、体力向上の機会を設定したりします。 休み時間は天候の様子を見ながら、全校児童で外遊びをするように声かけ、体を動かすことの楽しさが分かるような支援を行います。
	⑩		毎日1日8時間以上の睡眠をとっている児童が80%以上である。		A	
	⑪	学校は、進んで体力の向上を図ろうとする児童の育成に努めている。	進んで体力の向上を図ろうとする児童が80%以上である。		A	
Ⅳ 家庭や地域との連携	⑫	学校は、学校の考えや児童の様子を保護者にわかりやすく伝え、理解を得ている。	「学校の考えや子どもの様子が分かる」と答えている保護者が、80%以上である。	・学校だより、学年だより、学級だよりを定期的に配布し、学校ホームページでも学校や児童の様子を保護者や地域へ発信する。	A	⑫～⑭すべてにおいて、目標を達成することができた。さらに向上できるように次のような手立てを実施していく。 学校だより、学年通信、学級通信などを通して、学校の様子、活動を保護者、地域に伝えていく。担任は、児童の様子の変化を把握し、連絡帳への記入や、必要に応じて電話で保護者と連絡を取り合い、保護者が学校へ相談するハードルをなくすようにしていく。 今年度も学校運営協議会は4回の開催を予定している。地域と学校が目標や課題を共有し、話し合いの場を設ける。また、話し合いの場に児童も参加させ、子どもの視点からの意見を取り入れることで、学校運営の改善や目指す学校像の実現を図る。 ボランティア活動を積極的に依頼し、たくさんの方々に来校していただき、多くの目で児童の育成を図る。それによって、地域の方が学校に行きやすい状況を作り、地域と学校の協働体制を作る。
	⑬		「学校に連絡や相談がしやすい」と答えている保護者が80%以上である。		A	
	⑭	学校は、目指す学校像「地域とともに学び、子どもの夢と可能性を育む学校」の実現に努めている。	「している」と答える児童・保護者・教員が80%以上である。		A	
Ⅴ 安全確保・施設設備	⑮	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校している児童が90%である。	・警察署と連携して、参加体験型の交通安全教室・不審者対応を、消防署と連携して、実際の事案や災害を想定した不審者対応・火災・地震を想定した避難訓練や着衣水泳を実施する。 ・学級活動において、安全な歩行の仕方について指導する。また、交通安全教室を実施し、中高学年の児童に自転車の乗り方の指導を行う。 ・学期末の集団下校時に、通学路点検を行い、登下校の安全確保に努める。	A	交通安全教室や終業式などで外部の方の話を聞く機会を設け、交通事故の怖さを意識させ、自分の身を守ることを自覚させます。また、学級では日常的に交通ルールやマナーの指導を継続的にを行い、意識付けをしていきます。 11月の学校公開日に合わせて「地域防災訓練」を実施します。これを機会に、家庭で地域の危険箇所や避難場所の話をしてもらい、防災への理解と意識を深めます。 年に数回実施する避難訓練後に、避難の仕方など児童に振り返る機会を設け、自分の身は自分で守る意識を高めます。また、そのワークシートを家庭に持ち帰らせ、保護者の意見などもワークシートに記入を求め、避難場所などの確認を家族で話し合ってもらいます。避難訓練の活動の様子などを学年通信などで紹介し、防災について啓発していきます。
	⑯		災害や火災発生時の避難の仕方がわかると答える児童が90%以上である。		B	
Ⅵ キャリア教育	⑰	学校は、自分の将来の夢や希望について主体的に考えるキャリア教育の推進を図っている。	「将来の夢や希望について考えている」と答えている児童が80%以上である。	・総合や社会、学級活動などを中心に、自分の将来や進路について考える活動を意図的に設定し、キャリア教育を充実させる。	A	目標を達成することができました。さらに向上するために、キャリアパスポートを活用し、児童には自分の将来について考える機会をつくります。また、目標の設定をし、それを学期毎に振り返りを行います。保護者にも見てもらい、親子で話し合う機会を設けます。 キャリアパスポートの充実と学活等で学年の発達段階に応じて、学級活動の中で自分の長所、短所を知る「自分を知る」授業を実践していきます。また、授業の中で、自分の意見や考えを発表する場面を多く設定し、自己指導能力を高めていきます。
	⑱		「自分の持ち味を理解し、それを生かそうとしている」と答えている児童・保護者が80%以上である。		A	